

外国語科

英語での「発信力」を育成する指導

—「日本文化紹介」の授業を通して—

小 廣 川 和 恵

1 はじめに

生徒たちは急速に進む情報化・国際化社会に生きている。インターネットの普及により、国境を越えて膨大な情報を容易に入手したり、世界中の人々とメールやテレビ電話を使って瞬時に通信できたりする時代である。英語での受信のみならず発信する力が今後益々必要となってくる。また、将来外国人と直接コミュニケーションを図る機会も増えるであろう。その際には、相手国の文化を尊重しつつ、自国の文化についても語り、相互理解できることが大切である。

今年度から全面実施されている学習指導要領外国語には、改訂の基本方針¹⁾として次のようである。

自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。

更に、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成が求められている。

本学校園9（中学3）年生の生徒は6月に広島平和記念公園で外国の方々との交流（エスコートプロジェクト）²⁾を経験した。その際の事前事後調査によると、「相手の方と会話を続ける自信がある／続けることができた」という項目の肯定的

評価は、事前の15%から事後の63%と大きく伸びた。実際に外国の方々とコミュニケーションを図ったことで、自信をつけた生徒が増えた。一方で、「相手のことを考え、内容を整理し、わかりやすく伝えることができるであろう／伝えられた」という項目に関しては、事前の46%から38%へと下がっている。このことから、伝えたい内容や自分の考えを整理して話す練習が更に必要であるということがわかった。

そこで本研究では、英語での「発信力」を育成する指導の実現に向け、生徒が学んだことを活用し、伝えたいことを文章に書いてまとめ、スピーチとして発信するまでの学習について考察する。「日本文化紹介」の授業実践を検証することで、効果的な指導方法について再考したい。

2 研究の方法

(1) 対象生徒

広島大学附属三原中学校9（中学3）年生 81名を対象とした。

(2) めざす子どもの姿

課題を踏まえ、実際のコミュニケーション場面で伝えたいことを英語で発信できるようにするために、本学校園中学校のめざす子どもの姿を次のようにした。

外国語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を習得し、実際のコミュニケーション場面で活用して、伝えたいことを英語で発信できる子ども。

(3) 指導計画

今年度、本学校園外国語活動部会において、小中5年間の繋がりを考えた系統的な学習指導を目指し、主に外国語表現の能力を高めるための言語活動を設定し、プロジェクトとしてカリキュラムの中に位置づけた³⁾。9年生のプロジェクトは表2のとおりである。

表2 プロジェクト

月	活動名	言語活動内容	言語の使用場面・言語の働き
6月	①エスコートプロジェクト	外国の方々に対して、広島平和記念公園内を英語で案内するとともに、平和に対する考えを伝える。	相手の行動を促す／コミュニケーションを円滑にする
11月	②ビデオレター：英語で日本文化発信	文通相手やエスコートでお世話になった人に、身近な日本文化を英語で紹介する。	情報を伝える
2月	③英語で自分を語る	様々な場面で、自信をもって英語で自己を語る。	気持ちを伝える／考えや意図を伝える

(4) 調査時期と授業実践の概要

本研究では、3つのプロジェクトのうちの2つ目「ビデオレター：英語で日本文化発信」を取り上げる。6月のエスコートプロジェクトで交流した外国の方々に対して、ビデオレターで「日本文化を紹介する」ということを最終ゴールとして設定し、11月に研究授業を行った。

3 単元について

(1) 単元名

「日本文化を紹介しよう」⁴⁾

(2) 単元観

本単元は、地域の行事や祭りなどの伝統や文化を紹介する単元である。生徒は、これまでに「寿司」「マンガ」「けん玉」等についての説明文を学習し、「call+目的語+補語」や「分詞の後置修飾」等、説明する際に便利な表現方法を学んでいる(表3)。本単元では、まとまった文章を書く手順がスモールステップで示されている。文章構成

の分析、書くポイントの箇条書き、関わりや気持ちを加えた原稿作成、最終的なスピーチという流れである。

表3 本単元までの関連した学習内容

日本文化に関する本文	文法事項や文章の特徴
Program5「回転寿司」	「call+目的語+補語」 起源や特徴の表し方 図やグラフの説明の仕方
Program6「漫画」「けん玉」	「分詞の後置修飾」 調べたことを報告する
Challenge2「茶道」	専門的な詳しい説明 感想の述べ方
My Project8 (本単元) 「ハロウィーン」	文章構成の分析 書くポイントの箇条書き 関わりや気持ち

(3) 単元の目標

- 聞き手が理解しやすくなるように、工夫して話す。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。(外国語表現の能力)
- 内容的にまとまりのある文章を書くことができる。(外国語表現の能力)
- 「call+目的語+補語」や「分詞の後置修飾」等の既習事項の文を活用する。(言語や文化についての知識・理解)

(4) 単元計画

- 第1次：モデルスピーチの内容理解と文章構成の分析
- 第2次：日本文化紹介の原稿を書く
- 第3次：スピーチ原稿を推敲する
- 第4次：相手に伝わる話し方を練習する
- 第5次：外国へ送るビデオレターを作成する

4 授業実践

(1) 第1次：モデルスピーチの内容理解と文章構成の分析

Step1・・・モデルスピーチの内容理解	【聞く】
シンプルな文章と詳しく書かれた文章の比較	

Step2・・・モデル文の文章構成の分析	【思考】
名称・時期⇒起源・由来⇒当時の風習⇒現在との関連	
Step3・・・発音・イントネーション練習	【話す】
th/l/r/f/v	
Step4・・・違う内容のモデルとの比較	【思考】

まず、最終ゴールである「日本文化の紹介」のモデルを示し、文章構成を押さえた。導入で、モデルスピーチを簡易化したもの（モデル1）と、具体的に説明したもの（モデル2）とを2段階に分けて提示し、比較させ、より分かりやすく文章を書くにはどのような情報を付け足せばよいか、どのように工夫をすればよいか等を生徒に考えさせた。詳しく説明するための後置修飾や目的を表す不定詞、副詞などが効果的であることに気づく発言が見られた。

Halloween is a special day. It is a very old festival. People built fires, and they wore masks and costumes. These traditions were brought to North America and are enjoyed today.

モデル1（シンプルな文章）

Halloween is a special day celebrated on October 31. Some people think it is a very old festival celebrating the harvest. People built fires, and they wore masks and costumes to copy the bad spirits. These traditions were brought to North America in the 19th century and are still enjoyed today.

モデル2（詳しく書かれた文章）

(2) 第2次：日本文化紹介の原稿を書く

Step0・・・予め家庭学習として、トピック例（行事、習慣、もの、食べ物、スポーツ）を参考にテーマを決めておく。また、情報収集しておく。

Step1・・・自分が選んだテーマについてマッピングを行う。その際、自分との関わりや気持ちも入れる。 【思考】

Step2・・・マッピングをもとに、原稿を書く。文章構成を考え、話し始めや終わり方も工夫する。書くことができたところまでを提出し、チェックを受ける。 【書く・表現】

生徒はマッピングで思考を整理した後、文章作成に取りかかった。自分との関わりや気持ちを入

れることができるトピックを選ぶことを条件とした。

生徒が選んだトピックを次に示す。

【年中行事】・・・正月(6)、年賀状、お年玉、正月のゲーム、節分、ひな祭り(3)、七夕、大晦日(2) 【祭り】・・・花見、盆祭り、やっさ祭り、神明市、祇園祭り、亥の子祭り
 【伝統芸能】・・・獅子舞、歌舞伎(2)、舞妓、和太鼓 【衣装】・・・着物 【食べ物】・・・おせち料理(6)、寿司(5)、もち(2)、おにぎり、和菓子 【道具】・・・扇子、はし
 【伝統文化】・・・茶道(4)、華道、書道(2)
 【遊び】・・・けん玉(2)、羽根突き、お手玉、コマ 【スポーツ】・・・相撲(2)、空手(2)、剣道、サッカー 【漫画】・・・漫画、アニメ(3)、ジブリ、ギャルゲー 【名所】・・・東京タワーとスカイツリー 【文化財】・・・仏像
 【季節】・・・四季

説明文は事物が主語になる場合が多く、受け身の使用頻度が高くなる。書きたい気持ちはあるが、どのように説明すればよいか悩んでいた生徒もいた。書く手立てとして、説明する際に便利な表現のリストを与えたり、教科書の日本文化に関する本文を読み返してヒントを得るよう助言したりした。

- *絵や写真などがあって、名前を紹介するとき
 - 「これは～と呼ばれます」 This is called ~.
 - 「それは～と呼ばれる日本の…です」
It's a Japanese... called a ~.
- *英語圏の国に似たようなものがある場合・説明
 - 「それは～に似ています」 It's like ~.
 - 「それは～の一種です」 It's a kind of ~.
 - 「日本では、私たちはそれを～と呼びます」
In Japan, we call it ~
 - 「それは～を意味します」 It means ~
- *使用場面・目的
 - 「～するときに使われます」
It's used when we ~.
 - 「～するために使われます」 It's used to ~.
 - 「～だけを使います」 We only use ~
- *日時
 - 「～に開催されます」 It is held on ~
 - 「～は…に祝われる特別な日です」
~ is a special day celebrated on ...
 - 「人々は…の夜に～を祝います」
people celebrate ~ on the night of ...

*歴史

- 「これは日本の伝統的な～です」
This is a Japanese traditional ~.
- 「～と言う人もいます」 Some people say~
- 「～と思っている人もいます」
Some people think ~
- 「元々～に由来しています」
It originally comes from~

*方法

- 「このように」 ~like this.

*特徴

- 「～は私たちが…する場所です」
~ is a place which we ...
- 「たくさんの種類の～があります」
There are many kinds of~
- 「～のようなたくさんのものが作れます」
We can make a lot of things like~
- 「～は…のシンボルです」
~ is a symbol of...
- 「ご存じのとおり」 As you know,
- 「それは～の昔話にもとづいています」
It is based on an old story about~

次のそれぞれの英文は「お年玉」や「お正月」を紹介した生徒の作品である。「call+目的語+補語」や「分詞の後置修飾」等の既習事項の文を活用して書いている。

This is a New Year's gift called "otoshidama" in Japan. It's money now but in the old days, it was rice cakes. It's given to children from their family and relatives to celebrate the New Year. Most children who live in Japan are looking forward to get it every year. Of course, I think so, too.

We have oshogatsu from January 1st to 7th. There are exciting things. I will explain two things about it. First, when I get up, my family says "Akemashite Omedeto Happy New Year" not "Ohayo Good morning". It's used when it becomes new year. Second, children can get money from relative adults. We call it "Otoshidoma". Children says "Thank you" with a smile after getting it. I think oshogatsu makes everyone smile. So, I love shogatsu very much.

Many Japanese people spend new years day with their family. On January 1, we eat special dishes. This is called Osechi. Any food of Osechi are meaningful. For example, shrimps are eaten to live a long life. I eat Osechi every new years day. I feel the beginning of a new year by eating Osechi. Also, we enjoy kite flying, battledore and so on. It's popular games. In this way, we enjoy our selves January 1. Thank you.

(3) 第3次：スピーチ原稿を推敲する

- Step1・・・綴りや文法的な誤りのチェックを確認し、班内で原稿を読み合う。【読む】
- Step2・・・友達の文章の工夫を参考に、再考して書く。【思考・書く】
- Step3・・・清書する。【書く】

原稿の内容を推敲する際、原稿作成には個人差があり、個別指導も必要となった。個人が選んだテーマによっても書きやすさや書きにくさがあった。

例えば、扇子について用途を説明した生徒は、比較的短時間で容易に書くことができていた。show and tell をイメージしやすく、興味を引く導入が工夫されている。しかし、自分との関わりや気持ちとなると、記述が少ない。

I'll show you a Japanese item.
Look!
It's not a stick.
I'll open it.
It's a kind of fan.
We call it sensu in Japan.
We usually use it when it is hot.
Sensu is a traditional thing of my country.
I think it is very useful!

歌舞伎について調べていた生徒は、英文にまとめて書くための時間を要していた。時代や道具の説明から役者の名前まで、日本語でも説明が難しい部分がある。習った英語で書いて表現できるようにするため、情報の取捨選択が必要であった。発表の際にも、日本文化を知らない外国の方が理解できるように、図や写真を効果的に示す等の工夫がいった。

I'm going to tell you about Kabuki.
 It is a kind of Japanese folk plays.
 It has a long history.
 Izumono okuni started the play like Kabuki in the Azutimonoyama period.
 The people enjoyed watching a Kabuki performance in the Edo period.
 Even today ^{there are} many Kabuki actors in Japan.
 They have their own stage name. For example, Takashimaya, Naritaya, Mikawaya and so on.
 Do you know Idrikana Panjuro? He is known to everyone as a great Kabuki actor.
 I haven't watched Kabuki.
 But I want to watch it some day.

アニメが好きな生徒は、辞書を使って時間をかけ、意欲的に自分の書きたいことを書き連ねていた。自分との関わりについては思いがたくさん入っていて、気持ちが伝わってくる文章である。しかし説明としては、あるアニメ会社を紹介し、アニメ作品の名前しか書かれておらず、アニメの歴史や特徴をわかりやすく伝える工夫が少ない。

Japanese animation is a very important culture in the world. It's loved by many people. Japanese animations are made by many animation companies. I'll introduce one of the companies. Its company's name is "J.C STAFF". J.C STAFF makes wonderful animes. Now, J.C STAFF is making "Little Busters!". Little Busters! is e-very moving animation. If you watch it, you shed tears. J.C STAFF makes other wonderful works. For example, "Toaru majusu no index", "Steins;gate no shere" and so on. I didn't like anime when I was younger. But, when I watched an anime, my opinion changed. Some people say, anime is a disagreeable Japanese culture. But, I think animes are wonderful. So, you should watch some animes!

次の作品は同じアニメの紹介である。文章量は少ないが、「1秒間に24枚の絵を使う」という文を書いており、アニメのことを知らない相手を想定して、アニメの特徴を伝えている。それぞれの良さや課題がある。推敲段階で同じテーマの作品を読み合うことは、内容が似通ってくる可能性があるために行わなかったが、完成段階で説明を聞き合うことで学びが深まると考える。

I will tell you about Animation.
 In Japan, we call it Anime.
 It is one of the best Japanese tradition.
 It is made by many pictures.
 There are 24 pictures in one second.
 I think it is very creative.
 So, it is liked around the world.
 Will you watch anime, and you will be happy.

(4) 第4次：相手に伝わる話し方を練習する

- Step1・・・わかりやすく伝える工夫を考える。 【思考】
- Step2・・・個人練習 【話す】
- Step3・・・グループ練習 【話す・聞く】

本時は、公開研究会で行った授業である。スピーチを行う準備段階としてペアやグループでの練習で、「聞き手が理解しやすくなるように、強調したり繰り返したりしながら日本文化を紹介すること」を目標とした。ALTの協力のもと、テレビ電話を使って相手意識を持たせる予定であったが、音声不具合のため、予定を変更した。強調することは意識できるが、繰り返すことは相手が理解しているかどうかを確認しながら判断することなので、難しかった。また、本時では生徒の自己評価項目が多い上に、重点目標と自己評価項目が一致していなかったため、目標が絞り込めていなかったことが課題として挙がった(表4)。「スピーチを行う」という最終活動に向けて、授業ごとに目標を明確にし、計画的に指導と評価を行うことの重要性を再認識した。

表4 自己評価と振り返り

	C評価	B評価	A評価
声の大きさ	0%	18%	82%
イントロ	0%	40%	60%
アイコンタクト	3%	37%	60%
表情	0%	34%	66%
ジェスチャー	0%	20%	80%

何回か練習したから、方向が読まなくていいけど、もう一度、その、プレゼンをして、分かる説明できるようにしたい。

文が長くて聞き取りにくいというアドバイスを受け、意見を聞いて、相手に分かるように説明しようと思ったので、よかったです。

(5) 第5次：外国へ送るビデオレターを作成する

最終的に全ての生徒が個別にビデオ撮影を行い、日本文化を紹介した。実物投影機を用い、小道具や絵を大きく写しながら show and tell を行った。発表は1人あたりおよそ40秒から1分かかかる。今回全員のビデオ撮影をしてみて、1回で合格することは少なく、2, 3回の撮影をした。教室では、ペアやグループで十分スピーチ練習の時間をとったが、個別に確認すると間違った発音やイントネーションが多数あった。全てを修正することは難しかったが、短い時間でも個別のスピーチ指導を行い、生徒は英語でそれぞれ日本文化を説明することができた。

(6) その後：ビデオレターでの交流

エスコートプロジェクトのお礼と合わせて日本文化紹介を入れたビデオレターを作成した。関わっていただいた先生方に、グループ別に全ての生徒のビデオを編集することができればよかったが、時間的に難しかったため、代表で学校や三原と関わる文化紹介を3点編集した。

その後アメリカの先生方に見ていただくことができ、ビデオレターの返事をいただいた。生徒の感想から、これまで行ってきたプロジェクトの取り組みや学習内容が有意義に捉えられ、英語でコミュニケーションを図ることに対しての意欲の高揚がうかがえる。

“つながっている”ということや“改めて分かりました。たった1日のプロジェクトですが、こうして終わったあともビデオレターを通して“つながり”がもてよかったです。貴重な体験です。

5 成果と課題

成果として、「発信力」を育成する観点から、外国人にビデオレターで日本文化を紹介するという場面設定により、一方的なスピーチではなく、「外国人の先生方に日本文化を紹介するためにスピーチをする」という相手意識を持たせることができた。また、ビデオレターの返事をいただいたことで、生徒は英語で伝えたことへの達成感を得

ることができた。これらの経験を通して、コミュニケーション意欲を一層高めることができたと考ええる。また、英語で発信するために、それぞれの生徒が伝えたいことは何か、伝えるためには何を調べ、どのような準備をしなければならないかということを考えることができた。

課題としては、文章推敲や練習の過程で、相手にとって何が理解できて、何が理解できにくいかな等を考えさせる場面が不十分であった。公開研究会での研究協議でも、相手意識を持たせる指導と評価が課題として挙げられた。相手意識を持たせるということは、相手の立場に立ってどの程度の内容なら相手が理解できるか、具体的に説明すべき内容は何かを考えることや、相手にとっては聞き慣れないことを説明する場合は、相手を気遣いながら話す工夫がいる。相手意識を育てる手立てについて、今後も研究していく。

本研究では、英語での発信力の育成を目指し、日本文化紹介の授業実践を通して、伝えたい内容や自分の考えを整理して話すことができるようにするための効果的な指導について、指導過程を振り返りながら考察してきた。生徒が将来「実際のコミュニケーション場面で活用して、伝えたいことを英語で発信できる」ことを目指して、成果と課題を今後の指導に活かしていきたい。

<注および引用文献>

- 1) 文部科学省：『中学校学習指導要領解説 外国語編』, pp. 2-3, 平成20年9月, 開隆堂出版株式会社
- 2) 外国の方を対象に、本校生徒が英語で平和公園をガイドすることを中心とした活動である。
- 3) 松尾砂織・小廣川和恵・安松洋佳・榎葉みづ子・柳瀬陽介・松宮奈賀子：「平成24年度幼小中一貫教育研究会外国語部会研究構想」, 平成24年11月
- 4) 使用教科書は「Sunshine English Course」(開隆堂)で、My Project8「伝統文化を説明しよう」の単元である。